Rev.15.00.14 リリースノート

○NVR700W Rev.15.00.13 からの変更点

■機能追加

[1] YNOエージェント機能で、GUI Forwarderに対応した。

　http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/yno/agent/index.html

　外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[2] YNOエージェント機能で、ゼロコンフィグに対応した。

　http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/yno/agent/index.html

　外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[3] YNOエージェント機能で、HTTPSプロキシサーバーが存在する環境でYNOマネージャーに接続できるようにした。

　○YNOで使用するHTTPSプロキシサーバーの設定

　[書式]

　　yno https-proxy PROXY_SERVER PORT

no yno https-proxy [PROXY_SERVER [PORT]]

[設定値及び初期値]

PROXY_SERVER

[設定値] : HTTPSプロキシサーバーのホスト名、もしくはIPアドレス

[初期値] : -

PORT

[設定値] : HTTPSプロキシサーバーのポート番号 (1..65535)

[初期値] : -

[説明]

YNOで使用するHTTPSプロキシサーバーを設定する。

PROXY_SERVERには、HTTPSプロキシサーバーのFQDN形式のホスト名、

またはIPアドレスを255文字以内の半角英数字および半角記号で指定する。

PORTには、HTTPSプロキシサーバーのポート番号を指定する。

[ノート]

ユーザー認証が必要なHTTPSプロキシサーバーを使用することはできない。

[4] CLIの機能を拡張した。

コンソール: 変数、エイリアス、マクロ、ヒストリー

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/cli/vamh.html

設定の一括更新とロールバック

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/cli/load.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[5] EMFS機能を追加した。

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/emfs/index.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[6] 「v6プラス」接続サービスに対応した。

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/v6plus/index.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[7] モバイルインターネット機能で、以下のデータ通信端末に対応した。

- FUJISOFT FS040U

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/mobile-internet/index.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[8] Oracle Cloud InfrastructureとのIPsec接続に対応した。

https://network.yamaha.com/setting/router_firewall/cloud/oracle_cloud/

設定例をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[9] IPsec over IPIPのファストパスに対応した。

[10] L2TPv3を用いたL2VPNで、IEEE802.1Qタグ付きフレームをファストパスで処理するようにした。

[11] L2TPv3を用いたL2VPNで、トンネルインターフェースに以下のフィルターを設定・

適用できるようにした。

- イーサネットフィルター

- IPフィルター

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/l2tpv3/index.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[12] IKEv2で、鍵交換の始動パケットを受信しない機能を追加した。

これにより一部の機器やサービスとの接続が安定する可能性がある。

○鍵交換の始動パケットを受信するか否かの設定

[書式]

ipsec ike negotiation receive GATEWAY_ID SWITH

no ipsec ike negotiation receive GATEWAY_ID

[設定値及び初期値]

GATEWAY_ID .... セキュリティ・ゲートウェイの識別子

SWITCH

on .... 鍵交換の始動パケットを受信する

off .... 鍵交換の始動パケットを受信しない

[初期値]：on

[説明]

IKEv2で、鍵交換の始動パケットを受信するか否かを設定する。

受信しないに設定した場合は、結果として受動側としては動作せず、必ず始動側

として動作するようになる。

[ノート]

本コマンドはIKEv1の動作には影響を与えない。

offにする場合には、ipsec ike remote addressまたはipsec ike remote nameを

IPアドレスで設定しておく必要がある。

[13] L2MSで、以下の機器に対応した。

- SWX3200-52GT
- SWX3200-28GT
- SWX3100-10G
- SWX2310P-28GT
- SWX2310P-18G
- SWX2310P-10G
- WLX313

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/swctl/index.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[14] スイッチのCONFIGバックアップ機能に対応した。

〇スイッチの設定を保存するファイル名の指定

[書式]

switch config filename NAME

no switch config filename [NAME]

[設定値及び初期値]

NAME

[設定値] : ファイル名 (半角99文字以下、全角49文字以下)

[初期値] : -

[説明]

スイッチの設定を保存するファイル名を指定する。

本コマンドが省略された場合は、switch selectコマンドで指定された文字列に

.confを付けたものをファイル名とする。

ただし:(コロン)は_(アンダースコア)に置き換えられる。

複数のswitch selectコマンドで同じファイル名を指定することができる。

switch config directoryコマンドで指定されたディレクトリがRTFS領域である

場合は、ファイル名にマルチバイト文字を使用することはできない。

本コマンドを実行する前にswitch selectコマンドでスイッチを指定しておく

必要がある。

○スイッチの設定ファイルを格納するディレクトリの指定

[書式]

switch config directory PATH

no switch config directory [PATH]

[設定値及び初期値]

PATH

[設定値] : 相対パスまたは絶対パス (半角256文字以下、全角128文字以下)

[初期値] : /sw_config

[説明]

スイッチの設定ファイルを格納するディレクトリを指定する。

相対パスを指定した場合、環境変数PWDを起点としたパスと解釈される。

PWDはsetコマンドで変更可能であり、初期値は"/"である。

PATHがRTFS領域となる場合は、PATHにマルチバイト文字を使用することはできない。

○スイッチの設定の取得

[書式]

switch control config get [SW]

switch control config get [[INTERFACE] all]

[設定値及び初期値]

SW

[設定値] :

設定値　　　　　説明

MACアドレスもしくは経路　指定したスイッチのみ

all　　　　　　　全てのスイッチ

[初期値] : -

INTERFACE

[設定値] : LANインターフェース名、ブリッジインターフェース名

[初期値] : -

[説明]

スイッチの設定ファイルを取得して保存する。

SWパラメータにMACアドレスもしくは経路を指定した場合は、指定したスイッチの設定ファイルを取得する。allを指定すると、マスターが認識している全てのスイッチの設定ファイルを取得する。

INTERFACEパラメータを指定すると、指定のインターフェースにつながっているスイッチを対象とする。INTERFACEパラメータを省略した場合は、allを指定した時と同様になる。

[ノート]

本コマンドで取得したスイッチの設定ファイルの名前には、switch config filenameコマンドで指定したファイル名を使用する。

スイッチの設定ファイルはswitch config directoryコマンドで指定したディレクトリに保存される。

本コマンドはschedule atコマンドで指定することができる。

○スイッチの設定の復元

[書式]

switch control config set [SW]

switch control config set [[INTERFACE] all]

[設定値及び初期値]

SW

[設定値] :

設定値	説明
MACアドレスもしくは経路	指定したスイッチのみ
all	全てのスイッチ

[初期値] : -

INTERFACE

[設定値] : LANインターフェース名、ブリッジインターフェース名

[初期値] : -

[説明]

マスターに保存されているスイッチの設定ファイルを使用して、スイッチの設定を復元する。

SWパラメータにMACアドレスもしくは経路を指定した場合は、指定したスイッチの設定を復元する。allを指定すると、マスターが認識している全てのスイッチの設定を復元する。

INTERFACEパラメータを指定すると、指定のインターフェースにつながっているスイッチを対象とする。INTERFACEパラメータを省略した場合は、allを指定した時と同様になる。

[ノート]

本コマンドで復元に使用するスイッチの設定ファイルには switch config filenameコマンドで指定した設定ファイルを使用する。

スイッチの設定ファイルはswitch config directoryコマンドで指定したディレクトリに保存されている必要がある。

本コマンドはschedule atコマンドで指定することができる。

[15] PPPoEパススルー機能に対応した。

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/pppoe/pppoe_pass_through.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[16] IPマスカレードで管理しているセッションの統計情報の表示とクリアをできるようにした。
また、セッション数がnat descriptor masquerade session limitコマンドで指定された
制限値で制限されたときに出力されるログに、制限された回数を追加した。

○IPマスカレードで管理しているセッションの統計情報の表示

[書式]

show nat descriptor masquerade session statistics [NAT_DESCRIPTOR]

[設定値および初期値]

NAT_DESCRIPTOR

[設定値] :

NATディスクリプタ番号 (1..2147483647)

省略時はすべての NAT ディスクリプタについて表示する。

[初期値] : -

[説明]

IPマスカレードで管理しているセッションの統計情報として始点IPアドレスで識別
されるホスト毎にセッション数、ピーク値、制限された回数と時刻を表示する。
セッション数の制限値は、nat descriptor masquerade session limitコマンドの
設定値に従う。

○IPマスカレードで管理しているセッションの統計情報のクリア

[書式]

clear nat descriptor masquerade session statistics [NAT_DESCRIPTOR]

[設定値および初期値]

NAT_DESCRIPTOR

[設定値] :

NATディスクリプタ番号 (1..2147483647)

省略時はすべての NAT ディスクリプタについて統計情報のクリアを行う。

[初期値] : -

[説明]

IPマスカレードで管理しているセッションの統計情報をクリアする。

[17] SIPの識別着信をできるようにした。

○TELポートでのSIPの識別着信をするか否かの設定

[書式]

analog sip arrive restrict PORT RESTRICT

no analog sip arrive restrict PORT

[設定値及び初期値]

PORT

[設定値]:

1 : TEL1ポート

2 : TEL2ポート

[初期値]:

RESTRICT

[設定値]:

permit : 着信許可

reject : 着信拒否

none : 識別着信しない

[初期値]: reject

[説明]

SIPの着信に対して、TELポートで識別着信をするか否かを設定する。

analog sip arrive restrict listコマンドで登録された識別着信リストに対しての

着信動作を決定する。

permitの場合には、発番号が登録リストに含まれれば着信許可となり、

それ以外は着信拒否となる。

rejectの場合には、発番号が登録リストに含まれれば着信拒否となり、

それ以外は着信許可となる。

noneの場合には、すべての発番号に対して着信許可となる。

[ノート]

ナンバー・ディスプレイサービスの契約が必要。

〇SIPの識別着信リストの登録

[書式]

analog sip arrive restrict list PORT NUMBER SIP_ADDRESS

no analog sip arrive restrict list PORT NUMBER

[設定値及び初期値]

PORT

[設定値]:

1 : TEL1ポート

2 : TEL2ポート

[初期値]:

NUMBER

[設定値]: リスト番号

[初期値]:

SIP_ADDRESS

[設定値]: SIPアドレス(sip:で始まり@を含んだSIP URIまたはsip:で始まる@を

含まないSIPユーザー名)

[初期値]:

[説明]

SIPの識別着信用のSIPアドレスをリストへ登録する。

リスト番号とは、SIPの識別着信リストの中で管理される通し番号である。また、

SIPの識別着信リストは TEL ポート毎に管理される個別のリストである。

[18] オフフックしたときに、登録した電話番号へ自動的に発信する機能を追加した。

〇オフフックで発信する相手先電話番号の設定

[書式]

analog off-hook call PORT NUMBER

no analog off-hook call PORT

[設定値及び初期値]

PORT

[設定値]:

1 : TEL1ポート

2 : TEL2ポート

[初期値]:

NUMBER

[設定値]: 相手先の電話番号

[初期値]:

[説明]

TELポートに接続された電話機をオフフックしたときに自動的に発信する相手先

の電話番号を設定する。

プレフィックスまで含めて設定する。

[19] SIPサーバーへ送信するREGISTERリクエストにおいて、Contactヘッダーのユーザー名を

設定できるようにした。

〇SIPサーバー毎のREGISTERリクエストのContactヘッダーの設定

[書式]

sip server register contact mode NUMBER MODE

no sip server register contact mode NUMBER [MODE]

[設定値及び初期値]

NUM

[設定値]: SIPサーバーの登録番号 (1..65535)

[初期値]:

MODE

[設定値]: 動作モード (1..3)

[初期値]：1

[説明]

SIPサーバーに送信するREGISTERリクエストのContactヘッダーに関する動作を設定する。

一部のVoIPキャリアを使う場合にのみ設定を変更する必要がある。

[20] SNMPトラップを送信するイベントが発生してからトラップを送信するまでの間隔を指定できるようにした。

○SNMPトラップの送信の遅延時間の設定

[書式]

snmp trap delay-timer WAIT

snmp trap delay-timer off

no snmp trap delay-timer [WAIT]

[設定値および初期値]

WAIT

[設定値]:SNMPトラップを送信するまでの遅延時間の秒数(1 .. 21474836)

[初期値]:-

[説明]

SNMPトラップを送信するイベントが発生してからトラップを送信するまでの

遅延時間を指定する。

offを設定した場合、即座にSNMPトラップを送信する。

設定する遅延時間は最低限保証する値であり、設定値以上遅延する場合もある。

[21] DHCPv6-PDのIRで取得したDNSサーバーのIPv6アドレスに対して、取得したインターフェースにNSを送信するようにした。
ルーターをRAプロキシに設定した場合に、上流のホームゲートウェイからNS/NAを受信するとそのIPv6アドレスへのimplicit経路を生成するため、この機能によりホームゲートウェイへの経路を自動的に作ることができる。

[22] DHCPでIPアドレスを取得したときにデフォルト経路を追加するか否かを設定するコマンドを追加した。

○DHCPでIPアドレスを取得したときにデフォルト経路を追加するか否かを設定

[書式]

ip INTERFACE dhcp auto default-route-add SWITCH

no ip INTERFACE dhcp auto default-route-add [SWITCH]

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] :

LANインターフェース名

WANインターフェース名

ブリッジインターフェース名

[初期値] : -

SWITCH

[設定値] :

設定値　説明

----

on　　DHCPでIPアドレスを取得したときにデフォルト経路に追加する

off　　DHCPでIPアドレスを取得したときにデフォルト経路に追加しない

[初期値] : on

[説明]

指定したインターフェースを使用中、DHCPでIPアドレスを取得したときに

デフォルト経路を追加するか否かを設定する。

すでにDHCPでIPアドレスを取得しているインターフェースに対してこのコマンド

の設定が変更された場合、次にDHCPでIPアドレスを取得した時点から新しい設定

が反映される。

[23] DHCPでIPアドレスを取得したときにimplicit経路を追加するか否かを設定するコマンド

を追加した。

○DHCPでIPアドレスを取得したときにimplicit経路を追加するか否かを設定

[書式]

ip INTERFACE dhcp auto interface-route-add SWITCH

no ip INTERFACE dhcp auto interface-route-add [SWITCH]

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] :

LANインターフェース名

WANインターフェース名

ブリッジインターフェース名

SWITCH

[設定値] :

設定値　説明

----

on　　DHCPでIPアドレスを取得したときにimplicit経路を追加する

off　　DHCPでIPアドレスを取得したときにimplicit経路を追加しない

[初期値] : on

[説明]

指定したインターフェースを使用中、DHCPでIPアドレスを取得したときにアドレスを取得したインターフェースのimplicit経路を追加するか否かを設定する。

すでにDHCPでIPアドレスを取得しているインターフェースに対してこのコマンドの設定が変更された場合、次にDHCPでIPアドレスを取得した時点から新しい設定が反映される。

[24] Web GUIのかんたん設定で、YNOエージェント機能を設定できるようにした。

[25] Web GUIのLANマップでスイッチのCONFIGバックアップ機能に対応した。

また、LANマップ上からスレーブのCONFIGファイルのファイル名や保存先を変更できるようにした。

[26] Web GUIのLANマップのタグVLAN画面で、SWX2300のタグVLANを設定できるようにした。

[27] Web GUIの詳細設定の以下のページで、LANとONUのリンク速度を設定できるようにした。

- [LAN]-[ポート]
- [ONU]-[ポート]

■仕様変更

[1] ルーター経由のSNMPによるスイッチの状態取得機能で、以下のスイッチのカウンターの値を取得できるようにした。

- SWX2100-8G
- SWX2100-16G
- SWX2100-24G
- SWX2100-5PoE
- SWX2100-10PoE

[2] マルチポイントトンネルの確立時に自動追加される対向拠点のトンネルアドレスへの経路の種別をtemporaryからimplicitへ変更した。

[3] IPv6ファストパスのセッション処理性能を改善した。

[4] 以下のコマンドを入力したときの処理負荷を軽減した。適用しているインターフェース数が多いほど軽減の効果が大きく表れる。

- ip INTERFACE secure filter
- ip filter
- ip filer set
- ipv6 INTERFACE secure filter
- ipv6 filter
- queue INTERFACE class filter list
- queue class filter

[5] IPキープアライブを複数設定している場合はキープアライブパケットの送信タイミングをランダムに分散させているが、ルーターに高負荷がかかるとランダム性を保てなくなることがあったため、高負荷が発生してもランダム性を保つようにした。

[6] dhcp scope bindコマンドでOUI(ベンダーID)を指定してIPアドレスを予約できるようにした。

○ DHCP予約アドレスの設定

[書式]

dhcp scope bind SCOPE_NUM IP_ADDRESS [TYPE] ID

dhcp scope bind SCOPE_NUM IP_ADDRESS MAC_ADDRESS

dhcp scope bind SCOPE_NUM IP_ADDRESS ipcp

dhcp scope bind SCOPE_NUM IP_ADDRESS-IP_ADDRESS MAC_ADDRESS★

no dhcp scope bind SCOPE_NUM IP_ADDRESS

no dhcp scope bind SCOPE_NUM IP_ADDRESS-IP_ADDRESS★

[設定値及び初期値]

SCOPE_NUM

[設定値] : スコープ番号 (1..65535)

[初期値] : -

IP_ADDRESS

[設定値] :

設定値	説明
xxx.xxx.xxx.xxx(xxxは十進数)	予約するIPアドレス
*	割り当てるIPアドレスを指定しない

[初期値] : -

TYPE : Client-Identifierオプションのtypeフィールドを決定する

[設定値] :

設定値	説明
text	0x00
ethernet	0x01

[初期値] : -

ID

[設定値] :

設定値　　　　　　説明

TYPEがethernetの場合　MACアドレス

TYPEがtextの場合　　文字列

TYPEが省略された場合　2桁十六進数の列で先頭はtypeフィールド

[初期値] : -

MAC_ADDRESS

[設定値] : xx:xx:xx:xx:xx:xx(xxは十六進数)

予約DHCPクライアントのMACアドレス

xx:xx:xx:*のように下位3オクテットをアスタリスク(*)にすることで、

OUI(ベンダーID)のみの指定となる ★

[初期値] : -

ipcp : IPCPでリモート側に与えることを示すキーワード

[初期値] : -

[説明]

IPアドレスを割り当てるDHCPクライアントを固定的に設定する。

Rev.8.03以降のファームウェアでは、IPアドレスを固定せずにクライアントだけを指定することもできる。この形式を削除する場合はクライアント識別子を省略できない。

[ノート]

IPアドレスは、SCOPE_NUMパラメータで指定されたDHCPスコープ範囲内でなければならない。1つのDHCPスコープ内では、1つのMACアドレスに複数のIPアドレスを設定することはできない。他のDHCPクライアントにリース中のIPアドレスを予約

設定した場合、リース終了後にそのIPアドレスの割り当てが行われる。

dhcp scopeコマンドを実行した場合、関連する予約はすべて消去される。
ただし、RTX810のRev.11.01.31以降、RTX5000/RTX3500のRev.14.00.22以降、
および、Rev.15.02系以降では、予約情報は消去されない。
ipcpの指定は、同時に接続できるBチャネルの数に限られる。また、IPCPで与える
アドレスはLAN側のスコープから選択される。

コマンドの第1書式を使う場合は、あらかじめdhcp server rfc2131 compliant on
あるいはuse-clientid機能を使用するよう設定されていなければならない。
またdhcp server rfc2131 compliant offあるいはuse-clientid機能が使用されない
よう設定された時点で、コマンドの第2書式によるもの以外の予約は消去される。

コマンドの第1書式でのクライアント識別子は、クライアントがオプションで送って
くる値を設定する。typeパラメータを省略した場合には、typeフィールドの値も
含めて入力する。typeパラメータにキーワードを指定する場合には typeフィールド値
は一意に決定されるのでClient-Identifierフィールドの値のみを入力する。

コマンドの第2書式によるMACアドレスでの予約は、クライアントの識別に
DHCPパケットのchaddrフィールドを用いる。この形の予約機能は、RTの設定が
dhcp server rfc2131 compliant offあるいはuse-clientid機能を使用しない設定に
なっているか、もしくはDHCPクライアントがDHCPパケット中にClient-Identifier
オプションを付けてこない場合でないと動作しない。

クライアントがClient-Identifierオプションを使う場合、コマンドの第2書式で
の予約は、dhcp server rfc2131 compliant onあるいはuse-clientidパラメータ
が指定された場合には無効になるため、新たにClient-Identifierオプションで
送られる値で予約し直す必要がある。

コマンドの第2書式で1つのOUI(ベンダーID)を複数設定することができる。★

OUI(ベンダーID)設定とMACアドレス設定の両方がある場合、MACアドレス設定を

優先する。★

OUI(ベンダーID)設定は以下のファームウェアで指定可能。★

RTX1210 Rev.14.01.28以降

NVR700W Rev.15.00.14以降★

NVR510 Rev.15.01.13以降

RTX830 Rev.15.02.03以降

[設定例]

A. # dhcp scope bind 1 192.168.100.2 ethernet 00:a0:de:01:23:45

B. # dhcp scope bind 1 192.168.100.2 text client01

C. # dhcp scope bind 1 192.168.100.2 01 00 a0 de 01 23 45 01 01 01

D. # dhcp scope bind 1 192.168.100.2 00:a0:de:01:23:45

E. # dhcp scope bind 1 192.168.100.10-192.168.100.19 00:a0:de:*★

1. dhcp server rfc2131 compliant onあるいはuse-clientid機能を使用する
 設定の場合

 A. B. C.の書式では、クライアントの識別にClient-Identifierオプションを
 使用する。
 D.の書式ではDHCPパケットのchaddrフィールドを使用する。ただし、
 Client-Identifierオプションが存在する場合、この設定は無視される。

DHCPサーバーはchaddrフィールドの値よりClient-Identifierオプションの値の方

が優先して使用される。

show status dhcpコマンドを実行してクライアントの識別子を確認することで、

クライアントがClient-Identifierオプションを使っているか否かを判別すること
も可能である。

リースしているクライアントとしてMACアドレスが表示されていれば
Client-Identifierオプションは使用していないリースしているクライアントとして
十六進数の文字列、あるいは文字列が表示されていれば、
Client-Identifierオプションが使われているClient-Identifierオプションを使う
クライアントへの予約は、ここに表示される十六進数の文字列あるいは文字列
を使用する

2. dhcp server rfc2131 compliant offあるいはuse-clientid機能を使用しない場合

A. B. C.の書式では指定できない。Client-Identifierオプションは無視される。
D.の書式ではDHCPパケットのchaddrフィールドを使用する。

なお、クライアントとの相互動作に関して以下の留意点がある。

個々の機能を単独で用いるとクライアント側で思わぬ動作を招く可能性がある
ため、dhcp server rfc2131 compliant onあるいはdhcp server rfc2131
compliant offで使用することを推奨する。
ルーターの再起動やスコープの再設定によりリース情報が消去されている場合、
アドレスの延長要求をした時やリース期間内のクライアントを再起動した時に
クライアントが使用するIPアドレスは変わることがある。

これを防ぐためにはdhcp server rfc2131 compliant on(あるいは
remain-silent機能を有効にする)設定がある。
この設定にすると、ヤマハルーターがリース情報を持たないクライアントから
のDHCPREQUESTに対してDHCPNAKを返さず無視するようになる。

この結果、リース期限満了時にクライアントが出すDHCPDISCOVERにRequested IP Addressオプションが含まれていれば、そのクライアントには引き続き同じIPアドレスをリースすることができる。

E.の書式では、OUI(ベンダーID)のみ指定し、そのOUI(ベンダーID)を持つ機器にのみIPアドレスを割り当てることができる。★

[7] 同一ネットワークのDHCPスコープを複数設定できるようにした。

〇DHCP スコープの定義

[書式]

dhcp scope SCOPE_NUM IP_ADDRESS-IP_ADDRESS/NETMASK [except EX_IP ...] [gateway GW_IP] [expire TIME] [maxexpire TIME]

no dhcp scope SCOPE_NUM [IP_ADDRESS-IP_ADDRESS/NETMASK [except EX_IP...] [gateway GW_IP] [expire TIME] [maxexpire TIME]]

[設定値及び初期値]

SCOPE_NUM

[設定値] : スコープ番号 (1..65535)

[初期値] : -

IP_ADDRESS-IP_ADDRESS

[設定値] : 対象となるサブネットで割り当てるIPアドレスの範囲

[初期値] : -

NETMASK

[設定値] :

xxx.xxx.xxx.xxx(xxxは十進数)

0xに続く十六進数

マスクビット数

[初期値] : -

EX_IP

[設定値] : IPアドレス指定範囲の中で除外するIPアドレス(空白で区切って

複数指定可能、'-'を使用して範囲指定も可能)

[初期値] : -

GW_IP

[設定値] : IPアドレス対象ネットワークのゲートウェイのIPアドレス

[初期値] : -

TIME : 時間

[設定値] :

設定値　　説明

1..2147483647　分

xx:xx　　時間 : 分

infinity　　無期限リース

[初期値] :

expire time=72:00

maxexpire time=72:00

[説明]

DHCPサーバーとして割り当てるIPアドレスのスコープを設定する。

除外IPアドレスは複数指定できる。リース期間としては無期限を指定できるほか、

DHCPクライアントから要求があった場合の許容最大リース期間を指定できる。

[ノート]

RTX1210 Rev.14.01.28以降、RTX830 Rev.15.02.03以降では、同一ネットワークの

DHCPスコープを複数設定できる。★

複数のDHCPスコープで同一のIPアドレスを含めることはできない。IPアドレス範囲

にネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスを含む場合、割り当て可能

アドレスから除外される。

DHCPリレーエージェントを経由しないDHCPクライアントに対してgatewayキーワード

による設定パラメータが省略されている場合にはルーター自身のIPアドレスを
通知する。
DHCPスコープの設定を上書きによって変更した場合、変更前に設定していた
リース情報、予約情報およびオプション情報は消去される。ただし、RTX810の
Rev.11.01.31以降、RTX5000/RTX3500のRev.14.00.22以降、および、Rev.15.02系
以降では、予約情報とオプション情報は消去されない。
expireの設定値はmaxexpireの設定値以下でなければならない。
工場出荷状態およびcold startコマンド実行後の本コマンドの設定値については
「1.7 工場出荷設定値について」を参照してください。

[8] DHCPサーバー機能で、リースするIPアドレスの重複チェック設定がある場合の処理性能
を上げた。

[9] DHCPサーバー機能で、スコープにリースできるアドレスがなかったときに
以下のメッセージをINFOレベルのSYSLOGに出力するようにした。
[DHCPD] Can't lease address because scope is full(ネットワークアドレス).
DISCOVER受信時にこのログを出力するが、連続してDISCOVERを受信しても同じログの
出力は1分間抑制される。

[10] dhcp scopeコマンドで、expireおよびmaxexpireで設定できる最大値を21474836分に
した。また、21474837以上の値を入力すると自動的に21474836が設定されるように
した。

○ DHCP スコープの定義
[書式]
dhcp scope SCOPE_NUM IP_ADDRESS-IP_ADDRESS/NETMASK [except EX_IP ...] [gateway GW_IP]
[expire TIME] [maxexpire TIME]
no dhcp scope SCOPE_NUM [IP_ADDRESS-IP_ADDRESS/NETMASK [except EX_IP...] [gateway GW_IP]

[expire TIME] [maxexpire TIME]]

[設定値及び初期値]

SCOPE_NUM

[設定値] : スコープ番号 (1..65535)

[初期値] : -

IP_ADDRESS-IP_ADDRESS

[設定値] : 対象となるサブネットで割り当てるIPアドレスの範囲

[初期値] : -

NETMASK

[設定値] :

xxx.xxx.xxx.xxx(xxx は十進数)

0x に続く十六進数

マスクビット数

[初期値] : -

EX_IP

[設定値] : IPアドレス指定範囲の中で除外するIPアドレス(空白で区切って複数指定可能、'-'を使用して範囲指定も可能)

[初期値] : -

GW_IP

[設定値] : IPアドレス対象ネットワークのゲートウェイのIPアドレス

[初期値] : -

TIME : 時間

[設定値] :

設定値	説明
1..21474836	分（NVR700W Rev.15.00.14、NVR510 Rev.15.01.13以降)★
1..2147483647	分（上記以外）★
xx:xx	時間 : 分

infinity　　無期限リース

[初期値] :

expire TIME=72:00

maxexpire TIME=72:00

[説明]

DHCPサーバーとして割り当てるIPアドレスのスコープを設定する。

除外IPアドレスは複数指定できる。リース期間としては無期限を指定できるほか、

DHCPクライアントから要求があった場合の許容最大リース期間を指定できる。

[ノート]

ひとつのネットワークについて複数のDHCPスコープを設定することはできない。

複数のDHCPスコープで同一のIPアドレスを含めることはできない。IPアドレス

範囲にネットワークアドレス、ブロードキャストアドレスを含む場合、割り当て

可能アドレスから除外される。

DHCPリレーエージェントを経由しないDHCPクライアントに対してgatewayキーワード

による設定パラメータが省略されている場合にはルーター自身のIPアドレスを

通知する。

expireの設定値はmaxexpireの設定値以下でなければならない。

工場出荷状態およびcold startコマンド実行後の本コマンドの設定値については

「1.7工場出荷設定値について」を参照してください。

Rev.10.00 系以前、RTX1200のRev.10.01.71以前、RTX810のRev.11.01.28以前、

RTX5000/RTX3500のRev.14.00.21以前、および、RTX1210のRev.14.01.20以前で

は、dhcp scopeコマンドを実行した場合に、同一のスコープIDを持つ以下の

コマンドの設定が消去される。

dhcp scope bind

dhcp scope option

[11] ap config filenameコマンドで、以下の変更を行った。

- ファイル名に設定できる文字数を半角256文字(全角128文字)以下から、
  半角99文字(全角49文字)以下とした。
- ap config directoryコマンドで指定されたディレクトリがRTFS領域である場合は、
  ファイル名にマルチバイト文字を使用できないようにした。

○アクセスポイントの設定を保存するファイル名の指定

[書式]

ap config filename NAME

no ap config filename [NAME]

[設定値及び初期値]

NAME

[設定値] : ファイル名 (半角99文字以下、全角49文字以下) ★

[初期値] : -

[説明]

アクセスポイントの設定を保存するファイル名を指定する。
本コマンドが省略された場合は、ap selectコマンドで指定された文字列に
.confを付けたものをファイル名とする。
ただし:(コロン)は_(アンダースコア)に置き換えられる。
複数のap selectコマンドで同じファイル名を指定することができる。
ap config directoryコマンドで指定されたディレクトリがRTFS領域である場合は、
ファイル名にマルチバイト文字を使用することはできない。★

本コマンドを実行する前にap selectコマンドでアクセスポイントを指定しておく
必要がある。

[12] ap config directoryコマンドで、以下の変更を行った。

- ディレクトリのパスに設定できる文字数を半角256文字(全角128文字)以下とした。
- ディレクトリのパスがRTFS領域となる場合は、マルチバイト文字を使用できない
  ようにした。

○アクセスポイントの設定ファイルを格納するディレクトリの指定

[書式]

ap config directory PATH

no ap config directory [PATH]

[設定値及び初期値]

PATH

[設定値] : 相対パスまたは絶対パス(半角256文字以下、全角128文字以下)★

[初期値] : /ap_config

[説明]

アクセスポイントの設定ファイルを格納するディレクトリを指定する。

相対パスを指定した場合、環境変数PWDを起点としたパスと解釈される。

PWDはsetコマンドで変更可能であり、初期値は"/"である。

PATHがRTFS領域となる場合は、PATHにマルチバイト文字を使用することはできない。★

[13] VRRPのシャットダウントリガーの設定で、TUNNELインターフェースに対応した。

○VRRPシャットダウントリガーの設定

[書式]

ip INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID INTERFACE

ip INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID pp PEER_NUM

ip INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID tunnel TUNNEL_NUM ★

ip INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID route NETWORK [NEXTHOP]

no ip INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID INTERFACE

no ip INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID pp PEER_NUM

no ip INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID tunnel TUNNEL_NUM ★

no ip INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID route NETWORK

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LANインターフェース名

[初期値] : -

VRID

[設定値] : VRRPグループID(1..255)

[初期値] : -

PEER_NUM

[設定値] : 相手先情報番号

[初期値] : -

TUNNEL_NUM ★

[設定値] : トンネルインターフェース番号

[初期値] : -

NETWORK

[設定値] :

ネットワークアドレス

IPアドレス/マスク長

default

[初期値] : -

NEXTHOP

[設定値] :

インターフェース名

IPアドレス

[初期値] : -

[説明]

設定したVRRPグループでマスタールーターとして動作している場合に、指定した

条件によってシャットダウンすることを設定する。

------------------------+---

形式 ¦ 説明

------------------------+---

LANインターフェース形式 ¦指定したLANインターフェースがリンクダウンする

¦か 、あるいはlan keepaliveでダウンが検知され

¦ると、シャットダウンする。

-------------------------+--

pp形式 ¦指定した相手先情報番号に該当する回線で通信で

¦きなくなった場合にシャットダウンする。通信で

¦きなくなるとは、ケーブルが抜けるなどレイヤ1が

¦落ちた場合と、以下の場合である。

¦ ・pp keepalive use設定によりダウンが検出さ

¦ れた場合

-------------------------+--

tunnel形式 ¦指定したトンネルインターフェースが以下の条件

¦によりダウンした場合にシャットダウンする。

¦ ・IPsecトンネルで、ipsec ike keepalive use

¦ 設定によりダウンが検出された場合

¦ ・L2TP/IPsec、L2TPv3、L2TPv3/IPsecのいずれ

¦ かのトンネルで、l2tp keepalive use設定に

¦ よりダウンが検出された場合

¦ ・PPTPトンネルで、pptp keepalive use設定に

¦ よりダウンが検出された場合

¦ ・IPIPトンネルで、ipip keepalive use設定に

¦ よりダウンが検出された場合

-------------------------+--

route 形式 ¦指定した経路が経路テーブルに存在しないか、

¦NEXTHOP で指定したインターフェースもしくはIP

¦アドレスで 指定するゲートウェイに向いていな

¦い場合に、シャットダウンする。NEXTHOPを省略し

¦た場合には、経路がどのような先を向いていても

¦存在する限りはシャットダウンしない。

------------------------+--

[14] VRRPv3のシャットダウントリガーの設定で、TUNNELインターフェースに対応した。

〇VRRPv3シャットダウントリガーの設定

[書式]

ipv6 INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID INTERFACE

ipv6 INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID pp PEER_NUM

ipv6 INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID tunnel TUNNEL_NUM ★

ipv6 INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID route NETWORK [NEXTHOP]

no ipv6 INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID INTERFACE

no ipv6 INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID pp PEER_NUM

no ipv6 INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID tunnel TUNNEL_NUM ★

no ipv6 INTERFACE vrrp shutdown trigger VRID route NETWORK

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LANインターフェース名

[初期値] : -

VRID

[設定値] : VRRPv3グループID(1..255)

[初期値] : -

PEER_NUM

[設定値] : 相手先情報番号

[初期値] : -

TUNNEL_NUM ★

[設定値] : トンネルインターフェース番号

[初期値] : -

NETWORK

[設定値] :

IPv6プレフィックス/プレフィックス長

default

[初期値] : -

NEXTHOP

[設定値] :

インターフェース名

IPv6アドレス

[初期値] : -

[説明]

設定したVRRPv3グループでマスタールーターとして動作している場合に、

指定した条件によってシャットダウンすることを設定する。

```
-------------------------+---------------------------------------------
形式                     ¦説明
-------------------------+---------------------------------------------
LANインターフェース形式 ¦指定したLANインターフェースがリンクダウンする
                         ¦か、あるいはlan keepaliveでダウンが検知される
                         ¦と、シャットダウンする。
-------------------------+---------------------------------------------
pp形式                   ¦指定した相手先情報番号に該当する回線で通信で
                         ¦きなくなった場合にシャットダウンする。通信で
                         ¦きなくなるとは、ケーブルが抜けるなどレイヤ1が
                         ¦落ちた場合と、以下の場合である。
                         ¦ ・pp keepalive use設定によりダウンが検出さ
                         ¦   れた場合
-------------------------+---------------------------------------------
tunnel形式               ¦指定したトンネルインターフェースが以下の条件
                         ¦によりダウンした場合にシャットダウンする。
                         ¦ ・IPsecトンネルで、ipsec ike keepalive use
```

¦　設定によりダウンが検出された場合

¦ ・L2TP/IPsec、L2TPv3、L2TPv3/IPsecのいずれ

¦　かのトンネルで、l2tp keepalive use設定に

¦　よりダウンが検出された場合

¦ ・PPTPトンネルで、pptp keepalive use設定に

¦　よりダウンが検出された場合

¦ ・IPIPトンネルで、ipip keepalive use設定に

¦　よりダウンが検出された場合

------------------------+---

route 形式　　　¦指定した経路が経路テーブルに存在しないか、

¦NEXTHOPで指定したインターフェースもしくはIPv6

¦アドレスで指定するゲートウェイに向いていない

¦場合に、シャットダウンする。NEXTHOPを省略した

¦場合には、経路がどのような先を向いていても存

¦在する限りはシャットダウンしない。

------------------------+---

[15] 以下のコマンドで、サブネットマスクに0を設定できるようにした。

- ipsec ike local id
- ipsec ike remote id

[16] 以下のコマンドで複数の相手先番号を指定できるようにした。

- pp enable
- pp disable
- tunnel enable
- tunnel disable

○相手先の使用許可の設定

[書式]

pp enable PEER_NUM [PEER_NUM ...]

no pp enable PEER_NUM

[設定値及び初期値]

PEER_NUM

[設定値] :

設定値	説明	
番号	相手先情報番号	
番号1-番号2	番号1から番号2までの相手先情報番号	★
番号1-	番号1以上のすべての相手先情報番号	★
-番号1	番号1以下のすべての相手先情報番号	★
anonymous	anonymousインターフェース	
all	すべての相手先情報番号	

[初期値] : -

[説明]

相手先を使用できる状態にする。工場出荷時、すべての相手先はdisable状態なので、使用する場合は必ずこのコマンドでenable状態にしなければならない。

複数指定した場合には、その全てで使用できる状態になる。★

[ノート]

必ず、1. pp disable、2. disconnect、3. pp の設定変更、4. pp enable、5. connectの手順を踏んで設定を変更する。

pp enableコマンドを実行すると内部情報の初期化が行われる。ppの設定変更の

有無に関わらず、ppが接続中にpp enableを実行すると、内部情報の初期化により、ppに紐付けられているtunnel等が切断される場合がある。

○相手先の使用不許可の設定

[書式]

pp disable PEER_NUM [PEER_NUM ...]

[設定値及び初期値]

PEER_num

[設定値] :

設定値	説明	
番号	相手先情報番号	
番号1-番号2	番号1から番号2までの相手先情報番号	★
番号1-	番号1以上のすべての相手先情報番号	★
-番号1	番号1以下のすべての相手先情報番号	★
anonymous	anonymousインターフェース	
all	すべての相手先情報番号	

[初期値] : -

[説明]

相手先を使用できない状態にする。

相手先の設定を行う場合はdisable状態であることが望ましい。

複数指定した場合には、その全てで使用できない状態になる。★

○トンネルインターフェースの使用許可の設定

[書式]

tunnel enable TUNNEL_NUM [TUNNEL_NUM ...]

no tunnel enable TUNNEL_NUM

[設定値及び初期値]

TUNNEL_NUM

[設定値] :

設定値	説明	
番号	トンネルインターフェース番号	
番号1-番号2	番号1から番号2までのトンネルインターフェース番号	★
番号1-	番号1以上のすべてのトンネルインターフェース番号	★
-番号1	番号1以下のすべてのトンネルインターフェース番号	★
all	すべてのトンネルインターフェース	

[初期値] : -

[説明]

トンネルインターフェースを使用できる状態にする。

工場出荷時は、すべてのトンネルインターフェースはdisable状態であり、使用する場合は本コマンドにより、インターフェースを有効にしなければならない。

複数指定した場合には、その全てで使用できる状態になる。★

○トンネルインターフェースの使用不許可の設定

[書式]

tunnel disable TUNNEL_NUM [TUNNEL_NUM ...]

[設定値及び初期値]

TUNNEL_NUM

[設定値] :

設定値	説明	
番号	トンネルインターフェース番号	
番号1-番号2	番号1から番号2までのトンネルインターフェース番号	★
番号1-	番号1以上のすべてのトンネルインターフェース番号	★
-番号1	番号1以下のすべてのトンネルインターフェース番号	★
all	すべてのトンネルインターフェース	

[初期値] : -

[説明]

トンネルインターフェースを使用できない状態にする。

トンネル先の設定を行う場合は、disable状態で行うのが望ましい。

複数指定した場合には、その全てで使用できない状態になる。★

[17] show status ynoの表示内容を変更した。

[18] show status ppコマンドで、Mobile接続時の累積時間表示を「日時分秒」形式に変更した。

[19] show status ppコマンドで、Mobile接続以外のPP接続も累積時間を表示するようにした。

[20] clear status ppコマンドで累積時間をリセットするようにした。

[21] nat descriptor masquerade port rangeコマンドで設定できるポート範囲の個数を16に増やした。

○IPマスカレードで利用するポートの範囲の設定

[書式]

nat descriptor masquerade port range NAT_DESCRIPTOR PORT_RANGE [PORT_RANGE ...]

no nat descriptor masquerade port range NAT_DESCRIPTOR [PORT_RANGE ...]

[設定値及び初期値]

NAT_DESCRIPTOR

[設定値] : NAT ディスクリプター番号 (1..2147483647)

[初期値] : -

PORT_RANGE

[設定値] : 間に - をはさんだポート番号の範囲 (1..65534)

[初期値] : PORT_RANGE=60000-64095 49152-59999 44096-49151

[説明]

IP マスカレードで利用するポート番号の範囲を設定する。

ポート番号は、まず最初に設定した範囲から利用される。最初の範囲がすべて使用中になったら、次の範囲のポート番号を使い始める。このように、設定した順番にポート番号が利用される。

同一のポート番号を使用して複数の接続先とのセッションを確立できるため、本コマンドで設定したポート数を超えるセッションの確立が可能である。最大

セッション数はnat descriptor masquerade session limit totalコマンドで設定

する。 ただし、nat descriptor backward-compatibilityコマンドでtypeパラメーター

を1に変更した場合は、最大セッション数は本コマンドで設定したポート数と同等と

なるため、最大セッション数を変更する場合は本コマンドの設定を変更する必要がある。

[22] traceroute6コマンドで、noresolvオプションおよび-saオプションに対応した。

併せて、IPv6アドレスの逆引きをするときはip6.intからip6.arpaを使用するように

変更した。

○traceroute6の実行

[書式]

traceroute6 DESTINATION [noresolv] [-sa SOURCE]★

[設定値及び初期値]

DESTINATION

[設定値] : 送信する宛先の IPv6 アドレス、または名前

[初期値] : -

noresolv : DNS による解決を行わないことを示すキーワード★

[初期値] : -★

SOURCE★

[設定値] : 始点 IP アドレス★

[初期値] : -★

[説明]

指定した宛先までの経路を調べて表示する。

noresolvオプションおよび-saオプションはNVR700W Rev.15.00.14、

NVR510 Rev.15.01.13以降で使用可能。★

[23] schedule atコマンドで以下のコマンドを実行できるようにした。

- pp select

- tunnel select

- switch select
- ap select

[24] Web GUIのLANマップで、LANマップの設定ダイアログの「端末の更新間隔」に対象機種を記載した。

[25] WebGUIのLANマップで、スレーブの温度異常による給電停止が発生したときの通知メッセージの文言を変更した。

[26] Web GUIのLANマップのタグVLANページで、アップリンクポートを表す矢印アイコンの色を変更した。

[27] Web GUIの以下の画面で使用される「ファイルの一覧」ダイアログのレイアウト、文言を変更した。

- LANマップのSWX2200のファームウェア更新ダイアログ
- 管理の[保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのインポート/エクスポート]
- 管理の[保守]-[ファームウェアの更新]-[外部メモリからファームウェアを更新]

[28] Web GUIのLANマップのヘルプで、スレーブのCONFIGバックアップ機能の注意事項を変更した。

[29] Web GUIの管理の[アクセス管理]-[ユーザーの設定]の「ユーザーの設定」で、各ユーザーの自動ログアウトまでの時間を設定できるようにした。

[30] Web GUIの画面右上に自動ログアウトまでの時間を表すアイコンを表示するようにした。また、画面右上のユーザー名から開くユーザーメニュー内に、自動ログアウトまでの時間を表示するようにした。

[31] Web GUIの管理の[アクセス管理]-[ユーザーの設定]の「ユーザーの設定」の設定入力ページで、設定項目の順序を変更した。

[32] Web GUIで、デザインやレイアウト等を修正し、視認性や操作性を改善した。

■バグ修正

[1] YNOエージェント機能で、YNOマネージャーとの通信中に稀にリブートすることがあるバグを修正した。

[2] YNOエージェント機能で、YNOマネージャーの[機器詳細]-[コマンド実行]や[機器詳細]-[CONFIG管理]で以下のコマンドを大量に含むCONFIGを投入したときに、リブートすることがあるバグを修正した。

- l2tp always-on off
- no l2tp always-on
- pp always-on off
- no pp always-on
- wan1 always-on off
- no wan1 always-on

[3] マルチポイントトンネルで接続している対向機器から、point-to-pointトンネルに対するIPsecメインモードの接続要求を受信するとリブートすることがあるバグを修正した。

[4] マルチポイントトンネルの接続が確立している状態で、以下のコマンドを実行するとリブートするバグを修正した。

- rip use
- no rip use
- rip timer

- no rip timer

[5] L2MSのスレーブとして無線APが検出されているとき、Web GUIでLANマップの操作を繰り返すと、リブートすることがあるバグ修正した。

[6] L2MSのマスターとして動作しているとき、 マスターのLAN1とスレーブのポート間でループが発生するとリブートするバグを修正した。

[7] L2TPv3経由でタグ付きIPv6パケットを受信したとき、リブートすることがあるバグを修正した。

[8] dhcp scope bindコマンドで、端末に割り当てたIPアドレスを含む範囲を設定した後に端末から再取得のREQUESTメッセージを受信するとリブートするバグを修正した。

[9] DHCPサーバー機能でDHCPINFORMメッセージを受信したとき、以下の条件をすべて満たすとリブートするバグを修正した。
- 指定されたIPアドレスと同じネットワークアドレスのスコープが設定されている
- 指定されたIPアドレスを含むスコープが設定されていない

[10] BGPを使用しているとき、トンネルインターフェースがダウンすると稀にリブートすることがあるバグを修正した。

[11] PPバックアップとネットワークバックアップを設定した状態で、再起動後に以下のいずれかのコマンドを実行するとハングアップし、その後リブートすることがあるバグを修正した。
- show ip route
- show status backup
- show status ip keepalive

[12] UPnP機能で、content-lengthヘッダがない、またはcontent-lengthヘッダの値が
0であるPOSTリクエストを受信するとリブートするバグを修正した。

[13] SFTPでログインをして、systemディレクトリ内でファイルの一覧を表示すると
リブートすることがあるバグを修正した。

[14] vlan INTERFACE 802.1qコマンドが設定されているとき、IEEE802.1Qタグが複数付加
されたフレームを受信するとリブートする可能性を排除した。

[15] 以下の場合にリブートやハングアップが発生したりシステムが不安定になることが
あるバグを修正した。

- すべてのLANインターフェースにIPアドレスが付与されていない状態で
  ip LANインターフェース address dhcpコマンドを設定したとき
- no ip LANインターフェース addressコマンドで
  すべてのLANインターフェースのIPアドレスを削除したとき

[16] nat descriptor masquerade port rangeコマンドで、ポート範囲を1つも指定せずに
実行するとリブートするバグを修正した。

[17] anonymousインターフェースでPPPoE接続の発信を行うとリブートすることがある
バグを修正した。

[18] Web GUIのかんたん設定の[IP電話]-[SIPサーバー接続]で、電話番号ルーティングの
設定がメイン経路とバックアップ経路の2つがあり、かつプレフィックスを4桁で
設定しているとき、いずれかの経路の設定を削除するとリブートするバグを修正した。

Rev.15.00.10以降で発生する。

[19] Web GUIの詳細設定の[NAT]で、静的NATとIPフィルターが設定されている

インターフェースに対して、以下の操作を行うとリブートするバグを修正した。

- [NATディスクリプターの設定]で静的NATの設定を削除・変更する

- [インターフェースへの適用の設定]でNATディスクリプターの適用を外す

Rev.15.00.10以降で発生する。

[20] YNOエージェント機能で、以下のタイミングでメモリーリークが発生することがあるバグを修正した。

- yno useコマンドの設定をonに変更したとき

- yno useコマンドがonに設定されている状態で、下記のコマンドの設定を変更したとき

  - yno access code

  - yno log

- YNOマネージャーの[機器管理]-[アクセスコード]でアクセスコードを変更し、ルーターのyno access codeコマンドの設定値が変更されたとき

[21] OSPFv3の使用中にメモリーリークが発生するバグを修正した。

[22] heartbeat2 transmit enableコマンドで、メモリーリークが発生することがあるバグを修正した。

[23] Web GUIのLANマップで、不正なHTTPリクエストを受け付けるとメモリーリークが発生することがあるバグを修正した。

Rev.15.00.10以降で発生する。

[24] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[クラウド接続]-[内容の確認と取得]で、"AWS に関する設定"を表示したとき、メモリーリークが発生するバグを修正した。

[25] TCPでSIPの不正アクセスを受けたときに、SIPの通信ができなくなってしまうことがあるバグを修正した。

[26] マルチポイントトンネル越しのVoIP通話ができないバグを修正した。

[27] VoIP通話中に相手のRTPのIPアドレスまたはポート番号が変更されると、音声が聞こえなくなるバグを修正した。

[28] YNOエージェント機能で、外部メモリー内の暗号化したCONFIGで起動しているときにYNOマネージャーの[機器詳細]-[コマンド実行]からコマンドを実行すると、CONFIGが自動で保存されないバグを修正した。

[29] YNOエージェント機能で、実行中CONFIGがルーターに保存されていないときに、YNOマネージャーの「機器一覧」のコマンド実行ページからコマンドが実行できないバグを修正した。

[30] yno use onおよびyno access codeコマンドが設定されているときに、設定コマンドとsaveコマンドを続けて実行すると、saveコマンドの実行に失敗することがあるバグを修正した。

[31] マルチポイントトンネルで、IPv6トンネルローカルアドレスに基づいて自動生成されたIPv6 implicit経路がトンネルダウン時に消滅するバグを修正した。

[32] マルチポイントトンネルで、トンネル確立前に設定した対向拠点のトンネルアドレスをゲートウェイアドレスとするIPv4静的経路が有効にならないバグを修正した。

[33] L2TPv3経由でタグ付きパケットを受信したとき、TCPのMSS調整が行われないバグを修正した。

[34] L2TPv3を用いたL2VPNで、トンネル接続を開始するとき、対象のトンネル番号より
大きな番号のトンネル接続を開始することがあるバグを修正した。

[35] IPIPトンネルおよびIPsecトンネルで、トンネルインターフェースのIPv6パケット
について、以下のMIB変数のカウントが行われないバグを修正した。

- 1.3.6.1.2.1.2.2.1.10.x ifInOctets
- 1.3.6.1.2.1.2.2.1.11.x ifInUcastPkts
- 1.3.6.1.2.1.2.2.1.16.x ifOutOctets
- 1.3.6.1.2.1.2.2.1.17.x ifOutUcastPkts

[36] ファストパスで処理されたIPv6パケットについて、以下のMIB変数のカウントが
行われないバグを修正した。

- 1.3.6.1.2.1.2.2.1.10.x ifInOctets
- 1.3.6.1.2.1.2.2.1.11.x ifInUcastPkts
- 1.3.6.1.2.1.2.2.1.17.x ifOutUcastPkts

[37] IPIPトンネル機能およびIPsecトンネル機能で、WAN側のインターフェースのMIB変数
ifInUcastPktsとifOutUcastPktsが正しくカウントされないバグを修正した。

[38] IPsec over IPIPトンネルの構成で、トンネルインターフェースの受信パケット数と
オクテット数がカウントされないバグを修正した。

[39] IPIPトンネル機能およびIPsecトンネル機能で、WAN側のインターフェースのMIB変数
ifOutUcastPkts がカウントされないことがあるバグを修正した。

[40] 対話形式でないユーザーインターフェースからLuaスクリプト機能の以下のコマンド
や関数を実行したとき、シリアルコンソールが正しく動作しなくなるバグを修正した。

- luaコマンド (-vオプション指定時)
- luacコマンド (-vオプション及び-lオプション指定時)

- print関数

[41] Luaスクリプト機能で、ソケット通信ライブラリを使用するとルーター本体のLEDが
正常に動作しなくなるバグを修正した。

[42] 同時に複数の機能でICMP Echoの応答を待っているとき、応答が返って来ても稀に
正しく認識できずに応答なしと誤判定されることがあるバグを修正した。

[43] dhcp scope bindコマンドで範囲指定による予約をしたとき、その範囲内の
IPアドレスが予約していない機器にも割り当てられてしまうバグを修正した。

[44] dhcp scopeコマンドで、expireまたはmaxexpireに71582789以上を指定すると
リース時間が正しく設定されないバグを修正した。

[45] dns staticコマンドで設定したFQDNがFQDNフィルターで設定されているとき、その
FQDNフィルターに該当するパケットを受信したときに不要なログが出力されるバグ
を修正した。

[46] 以下のコマンドで動的アドレスのプレフィックス長を省略した時に、
正しくフィルタリングされないバグを修正した。

- ipv6 filter
- ipv6 filter dynamic
- ipv6 inbound filter
- ipv6 policy filter

[47] RIP-2の認証キーの文字列を半角16文字で設定すると通信できないバグを修正した。

[48] ip pp remote address poolコマンドで、最大トンネル対地数分のIPアドレスを設定
できないバグを修正した。

[49] show status userコマンドで、ユーザー名が正しく表示されないことがあるバグを修正した。

Rev.15.00.10以降で発生する。

[50] dns staticコマンドとip hostコマンドで、64文字以上のラベルを持つFQDNを入力できてしまうバグを修正した。

[51] console characterコマンドの設定値がja.utf8のとき、show dns cacheコマンドの出力結果の日本語が文字化けするバグを修正した。

[52] show status wwan-moduleコマンドを実行したとき、特定のSIMカードで電話番号(MSISDN)に不正な文字が表示されるバグを修正した。

[53] ip INTERFACE rip sendコマンドでパラメーターチェックの不備を修正した。

[54] show lan-mapコマンドを実行して表示される項目名の誤記を修正した。

[55] 以下のコマンドヘルプの誤記を修正した。

- ip route
- ipsec sa policy
- ipsec tunnel
- ipsec transport
- ipv6 route
- no ipsec sa policy
- no ipsec transport

[56] クラウドサービスとのVPN接続設定機能で、nat descriptor masquerade static コマンドのUDPのポート番号に以下のいずれかの設定がある場合、AWSから取得したCONFIGの設定に失敗するバグを修正した。

- ポート番号を","で区切り、かつ、2番目以降に500または4500を指定している
- "-TO"、"FROM-"、"FROM-TO"のいずれかの形式でポート番号を指定し、かつ、指定した範囲内に500または4500が含まれる
- "*"を指定している
- "OUTER_PORT=INNER_PORT"形式でポート番号を指定し、かつ、OUTER_PORTに500または4500を指定している

[57] HTTPによる内蔵無線WANモジュールのファームウェア更新処理が、正常に動作しない可能性を排除した。

[58] Web GUIで、SYSLOG画面やTECHINFO画面のページ表示中あるいは「テキストファイルで取得」中にWebブラウザーを閉じるなどしてルーターからWebブラウザーへデータを送信できなくなると、数分間Web GUIの応答がなくなることがあるバグを修正した。

[59] Web GUIで、ヘッダー部分に表示されている「？」アイコンをクリックしてもヘルプが開かないことがあるバグを修正した。

[60] Web GUIの以下のページで、外部メモリー内のファームウェアファイルまたはCONFIGファイルのパスを表示するとき、全角文字が含まれていると文字化けして表示されるバグを修正した。

- ダッシュボードのシステム情報ガジェット
- 管理の[保守]-[ファームウェアの更新]-[外部メモリからファームウェアを更新]
- 管理の[保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのインポート]
- 管理の[保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのエクスポート]
- 管理の[保守]-[再起動と初期化]-[再起動]

[61] Web GUIのダッシュボードのガジェットでツールチップに表示される情報が、マウスが示している箇所とは別の情報が表示されたり、最新の情報が表示されないことがあるバグを修正した。

[62] Web GUIのダッシュボードのトラフィック情報(TUNNEL)ガジェットのグラフ表示に、IPv6パケットが反映されないバグを修正した。

[63] Web GUIのダッシュボードのトラフィック情報ガジェットのINグラフの表示に、ファストパスで処理されたIPv6パケットがカウントされていないバグを修正した。

[64] Web GUIのダッシュボードのURLのキーワードチェック統計ガジェットで、画面分離するとページタイトルが「不正アクセス検知機能」と表示されるバグを修正した。

[65] 外部メモリー内の設定ファイルから起動し、外部メモリーを外した状態でWeb GUIのLANマップの以下のページで、間違ったメッセージが表示されることがあるバグを修正した。

- [スレーブの管理]-[スイッチの管理]-[バックアップ経路の設定]
- [スイッチの設定・保守]-[機器名の設定]
- [スイッチの設定・保守]-[ポートミラーリング機能]
- [スイッチの設定・保守]-[ループ検出機能]
- [スイッチの設定・保守]-[省電力機能]
- [スイッチの設定・保守]-[初期化を行う]
- [ポートの設定]-[基本機能の設定]
- [ポートの設定]-[QoS機能の設定]
- [ポートの設定]-[タグVLANの設定]
- [ポートの設定]-[マルチプルVLANの設定]
- [ポートの設定]-[フレームカウンタの設定]
- [ポートの設定]-[給電 Class の設定]
- [ポートの給電操作]

- [マルチプルVLAN]

[66] Web GUIのLANマップの以下のページで、プログレスバーが非表示にならなかったり、

間違ったメッセージが表示されることがあるバグを修正した。

- [スレーブの管理]-[スイッチの管理]-[バックアップ経路の設定]
- [スイッチの設定・保守]-[機器名の設定]
- [スイッチの設定・保守]-[ポートミラーリング機能]
- [スイッチの設定・保守]-[ループ検出機能]
- [スイッチの設定・保守]-[省電力機能]
- [スイッチの設定・保守]-[フレームカウンタをリセットする]
- [スイッチの設定・保守]-[給電を再開する]
- [スイッチの設定・保守]-[再起動を行う]
- [スイッチの設定・保守]-[初期化を行う]
- [ポートの設定]-[基本機能の設定]
- [ポートの設定]-[QoS機能の設定]
- [ポートの設定]-[タグVLANの設定]
- [ポートの設定]-[マルチプルVLANの設定]
- [ポートの設定]-[フレームカウンタの設定]
- [ポートの設定]-[給電 Class の設定]
- [ポートの給電操作]
- [HTTPプロキシー経由でGUIを開く]
- [機器接続]-[更新]
- [履歴]-[すべて削除]
- [一覧マップ]-[更新]
- [機器一覧]-[表示の更新]
- [マルチプルVLAN]
- [タグVLAN]-[新規]
- [タグVLAN]-[参加ポート選択]

[67] Web GUIのLANマップで、履歴が数百件以上たまった状態で画面遷移を行ったり、
Webブラウザーのウィンドウを閉じたりすると、数分間Web GUIの応答がなくなることがあるバグを修正した。

[68] Web GUIのLANマップで、スレーブがリンクダウンした直後に[スレーブの管理]ダイアログを開こうとすると、プログレスバーが表示されたままになることがあるバグを修正した。

[69] Web GUIのLANマップのスナップショット機能でWLX402の経路異常が検知されたとき、以下の機能で表示されるWLX402の経路情報にアップリンクポートが表記されないバグを修正した。

- Web GUI のマップページ
- LANマップのメール通知
- SYSLOG

[70] WLX202のVLANの設定を変更したとき、WebGUIのLANマップの[タグVLANページ]でWLX202のタグVLAN情報を更新できなくなることがあるバグを修正した。

[71] L2MSスレーブの機器名または端末情報DBの機器名に特定の文字コードが含まれていると、Web GUIでLANマップが表示できないバグを修正した。

[72] Web GUIのLANマップのタグVLANページで、以下のバグを修正した。

- スレーブ機器が画面から見切れたとき、水平スクロールバーが表示されないことがある
- 水平スクロールしたとき、機器の画像が移動しない

[73] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsecに関する設定]で、VPN接続を新規に追加したとき、ipsec ike local addressコマンドが自動で設定されないバグ

を修正した。

[74] Web GUIのかんたん設定の[VPN]-[クラウド接続]から設定名に半角スペースや
一部の記号を含む文字列を設定し、「AWS からの設定情報取得」を実行すると
「CONFIG 作成」でエラーになるバグを修正した。

[75] Web GUIのかんたん設定の[日付と時刻]で、一般ユーザー権限でログインしたときに
日時の同期の「今すぐ同期」ボタンがグレーアウトしていないバグを修正した。

[76] Web GUIのLANマップを開いたまま以下のいずれかの操作を行うと、"[HTTPD] script error"というDEBUGレベルのSYSLOGが出力されるバグを修正した。

- 現在の表示対象インターフェースのL2MSを無効に変更する
- ルーターを再起動する

Rev.15.00.10以降で発生する。

[77] Web GUIのLANマップからHTTPプロキシー経由でL2MSのスレーブルーターにアクセスして、以下のページでLAN1のアドレスを変更した場合に、Web GUIを開き直すために
表示されるリンクの遷移先が正しくないバグを修正した。

- かんたん設定の[基本設定]-[LAN1アドレス]
- 詳細設定の[LAN]

[78] Web GUIのLANマップで、異常が検知されているSFPポートのポートアイコンが正しく
表示されないバグを修正した。

[79] Web GUIのかんたん設定の[基本設定]-[管理パスワード]の入力内容の確認画面で、
注意文が表示されないバグを修正した。

[80] Web GUIの詳細設定と管理で、アコーディオンメニューの表示・非表示が

切り替わらない可能性を排除した。

[81] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]で、正しくポート開放の設定ができないことがあるバグを修正した。

[82] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]-[プロバイダー接続の設定]-[入力内容の確認]で、接続種別が「モバイル接続（イーサネット方式）」のとき、インターフェース名にURLエンコード文字が含まれてしまうバグを修正した。
本バグは、Firefoxを使用したときにのみ発現する。

[83] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]の[ポート開放の設定]で、「転送用ポートの開放」の「ポート番号」が16文字以上のとき、以下のバグを修正した。
- 正しく表示されない
- 入力値を変更せずに設定すると、一時的に通信が途切れることがある

[84] CLIからNATの設定をすべて削除しても、Web GUIの詳細設定の[NAT]のNATディスクリプターの一覧に無効なNATディスクリプター番号の設定が表示されてしまうバグを修正した。

[85] Web GUIの詳細設定の[NAT]-[NATディスクリプターの設定]で、外側アドレスおよび内側アドレスで範囲指定したとき、アドレス数が最大値の16384を超えていてもエラーにならないことがあるバグを修正した。

[86] Web GUIの詳細設定の[NAT]-[インターフェースへの適用の設定]で、指定のインターフェースにNATを適用しても設定が保存されないバグを修正した。

Rev.15.00.10以降で発生する。

[87] Web GUIの詳細設定の[URLフィルター]-[インターフェースへの適用状況]で、

PPインターフェースにキーワードチェックのデフォルトルールを設定できない
バグを修正した。

[88] Web GUIの管理の以下のページで、ディレクトリーの一覧から選択したファイル名に
半角スペースが含まれるとき、別のファイル名で設定されてしまうバグを修正した。
- [外部デバイス連携]-[USB / microSD]-[SYSLOGの外部メモリーへの保存]
- [外部デバイス連携]-[USB / microSD]-[外部メモリー内のファイルを用いた起動]
- [外部デバイス連携]-[USB / microSD]-[ボタン操作による外部メモリーからの
インポート]
- [保守]-[ファームウェアの更新]-[外部メモリからファームウェアを更新]
- [保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのインポート]
- [保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのエクスポート]

[89] Web GUIの管理の[保守]-[CONFIGファイルの管理]で、インポートまたはエクスポート
するファイルパスが長いとき、入力内容の確認ページの表示が崩れるバグを修正した。

[90] 以下のコマンドの設定値が33文字以上のとき、Web GUIの管理の[アクセス管理]-[各種
サーバーの設定]から34文字目以降のみの変更ができないバグを修正した。
- httpd hostコマンド
- telnetd hostコマンド
- sshd hostコマンド
- sftpd hostコマンド

[91] Web GUIで誤記および表記のゆれを修正した。

以上